

社会科学習指導案（公民的分野）

日 時 11月16日1校時
学 級 3年C組
授業者 日高 貞雄

1. 単元名 「地球環境問題とわたしたちの生活」～みんなでできることを決めよう～

2. 単元について

本単元では、法教育の一環として、地球環境問題に対する解決策を具体的に考え、ルールをつくる授業を展開する。

法教育のねらいの一つには、法は多様な人々が共生するための相互尊重のルールであり、これを守っていくことの大切さを理解させ、法は単に国民の生活を規制するだけのものではなく、より豊かに、より安定させるものであることを認識させることがある。本単元で、問題解決のための「ルールづくり」を体験的に行わせる。その過程において、生徒一人ひとりが自分なりの意見をもって、討論を通して合意形成をはかり、自分たちでつくったルールを守るという規範意識の涵養、状況の変化に応じてルールの廃止や変更をして、主体的にルールをつくり、利用することで問題を解決していこうとする態度を育成したい。また、この学習では自分の考えをもち、積極的かつ論理的に意見を述べ、自分と異なる見解にも十分配慮して、討論、合意形成、建設的批判などができる能力を身につけさせることもめざしている。これは、現行学習指導要領の大項目（1）「現代社会と私たちの生活」中項目「イ 個人と社会生活」に記載されている「ルールの社会的合意性とそれに伴う責任」に関する学習となる。

本校は今年度、千葉市の環境保全部、環境調整課から環境学習モデル校の指定を受け、教科の面から環境学習に取り組むことになった。6月に実施した単元「国際問題と地球市民」の授業では、現在、地球規模で解決しなければならない課題があることを理解し、日本に住む自分たちが地球温暖化の問題に対して、どのように取り組むべきかを考えさせた。生徒は、地球規模での努力や国際協力や国際協調などが大切であることを理解し、自分たちの日常生活を見直すことで、人類がよりよい社会を築いていくために解決すべき課題を考えた。授業後の生徒の感想では、「レジ袋廃止、自動車に関する税金の値上げ、各世帯の電気使用量制限」等の具体的な温暖化対策案を教師が問いかけたところ、「壊れた地球の修復はできない」という危機感を持つ意見は少数であった。そして、多くは、「実際に行動することは難しい」、「よいとはわかっているけど便利さや快適さが優先する」、「自分一人では効果が見えないので行動しにくい」などの意見であった。つまり、ほとんどは地球環境問題に対して自分たちが何か取り組むべきであることは理解していても、そのための具体策を考えることが難しかったり、実際には行動に移すことができないという現状がある。

しかし、世界全体での温室効果ガス排出量は、依然増加傾向にあり、地球温暖化対策の実効性を確保するために、アメリカや発展途上国を含むすべての国が排出削減を約束する共通ルールを構築することが重要だといわれている。京都議定書の拘束期間（2008～2012年）以降の温室効果ガス排出削減の体制をめぐる国際交渉が混沌としている状況の中、2013年からの共通ルールの構築に向け、日本は世界各国に働きかけていく立場にある。生徒が20歳になる頃には、世界全体で地球環境を守るための新たなルールが適用されるであろう。社会の形成者として、法が共生のための相互尊重のルールであり、人々の生活を豊かにするために存在することを認識し、持続可能な社会を創り出すため、環境に対する負荷を減少させ、なお快適な生活を営むために、主体的に判断し行動できるようになってほしいと考える。

3. 研究との関連

「価値の模索」部会では、大会主題「社会の形成者として主体的に判断し行動する力を育てる社会科学習」の具現化をめざし、「社会的事象を多面的・多角的に考察し、判断する力を育成する指導のあり方」を部会の研究テーマとした。

これまでの授業実践では、

- (1) 社会的事象に対して、自分の意見をもつ。
- (2) お互いに意見交換をしながら、多面的・多角的に考える。
- (3) 再び、自分自身で社会的事象を見つめ直す。

という学習の積み重ねが、社会的事象を多面的・多角的に考察し、根拠をもって自分の考えをまとめるのに有効であることがわかった。

しかし、「公正に判断する」ことは自分の考えをもつだけではなく、現実に即してその考えを深めていくことが求められる。6月実施の単元「国際問題と地球市民」の授業で、地球温暖化の問題の解決を多面的・多角的に考察し、地球全体で取り組むべきであることは理解できたが、自分自身が行動を起こすことには二の足を踏んでいる状態がみられた。そこで、判断したことを行動に移すために、自分たちでルールをつくり、それに従い行動していくことのできる姿勢を育てるための単元を設定した。話し合っつけられたルールを、ルールの適正な要件（手続きの公平性・平等性・明確性・手段の相当性）に気づかせながら、そのルールに問題はないか、受け入れることはできるかを、多面的・多角的に考察させ、判断させて行動に移させていく学習である。

本単元では、以下のような過程を経ることによって、生徒のもつ価値の変容がなされ、社会の形成者として、よりよい社会をつくり上げていこうとするために必要な主体的に且つ公正に判断し行動する力が育成されると考えた。

- (1) ルールづくりの必要性を知り、ルールの適正要件を考える。（「価値の気づき」）。
- (2) 自分の考えに基づき、対策案の発表をクラスで行う（プロセス①「自己の価値の模索」）。
- (3) 各グループがルール案の提示を行い、クラスで質疑・応答する（プロセス②「比較による価値の模索」）。
- (4) 前時の結果を受けて、ルール案検討委員会が提示したルール案を、各自で検討する（プロセス①「自己の価値の模索」）。
- (5) グループでルール案の検討を行い、話し合いの結果をクラスに発表する（プロセス②「比較による価値の模索」）。
- (6) 「ルールづくり」の学習のまとめを行うことで、ルールの社会的合意性とそれに伴う責任に気づく（プロセス③「模索による価値の再形成」）。

※「知の構造化」部会との関連について

本単元の学習では、日常生活で環境に負荷をかけているのは具体的にどのような場面なのかを考察する活動を設定している。これは、具体的な社会的事象の読み取り（「知の構造化」4. 授業構成について(1) 事実に認識の第一段階）にあたる。また、地球温暖化防止のために自分たちができることを考えることは、個別的な事象の習得（「知の構造化」4. 授業構成について(2) 事実に認識の第二段階）にとらえることができる。また、地球温暖化の問題は、現在の地球環境問題を考える上で最も重要な問題の一つであることを授業内で確認する。これは即ち、地球環境問題における、社会の見方・考え方、いわゆる法則性の認識の段階（「知の構造化」4. 授業構成について(3) 事実に認識の第三段階）といえる。また、「地球温暖化ストップのためにみんなでできること」を考え、本時において「ルールづくり」をすることは、現実をとらえ、現実に対してとるべき態度や行動の方向性を個人として判断する「価値的認識」の段階（「知の構造化」4. 授業構成について〈価値的認識とは〉）に相当するものであると考えている。

※「社会への関わり」部会との関連について

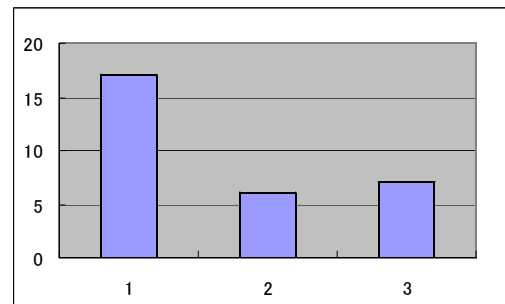
本単元の学習では、地球温暖化防止のために自分たちができることを、具体的・現実的に考えさせる場面を設定している。これは、「社会科の中で生徒と社会生活とのかかわり」を重視すること（「社会への関わり」4. 授業構成について【基本的コンセプト①】）と合致すると考える。また、本時の「地球温暖化をストップするためのルールづくりとその評価」では、地球温暖化の問題を通じて、それを防止するためのルールづくりを生徒が体験することで、ルールの重要性とそれを守る意義を理解させる、という目標を設定している。社会に必ず存在するルールについて学習することは、社会科の中で「生徒と社会生活とのかかわり」を重視すること（「社会への関わり」4. 授業構成について【基本的コンセプト①】）につながるものと考え。また、このようなルールづくりを行い、それを評価する学習活動を行うことは、実践的態度や行動しようとする力を育てること（「社会への関わり」4. 授業構成について【基本的コンセプト③】）に、結びつくものであると考えている。

4. 生徒の実態 （対象 千葉市立緑町中学校 3年C組 男子13名 女子17名 合計30名）

本単元を実施するにあたり生徒の実態を把握するためにアンケートを行った。次の2つのグラフは生徒が6つの選択肢よりあてはまるものを1つ選んだものである。6つの選択肢は、本部会が求める生徒像をレベルの高い順に、3、2、1点と点数化したものである。

1. あなたは先生の発問に対し、どの程度答えられますか。

- ア 教科書の文中に書いてあることは答えられる。 (1点)
- イ 教科書中のグラフや地図などの資料から答えられる。 (2点)
- ウ 資料集等を使ってより深く調べ、答えられる。 (3点)
- エ 知っていることは答える。 (1点)
- オ 知らないことでも友達と相談しながら答える。 (2点)
- カ 知らないことでも様々な資料を使って答える。 (3点)

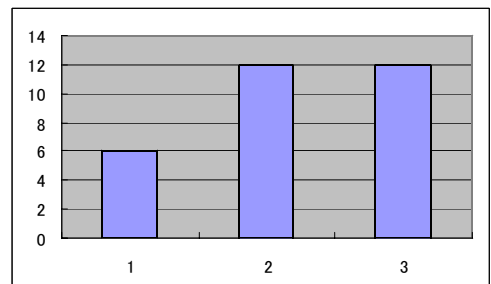


【表中の縦軸は人数，横軸は点数】

この結果、生徒は一問一答式の発問には答えようとしているが、答えが多岐にわたるものや考えをめぐらすものになるとなかなか答えられないことがわかる。本部会の発足時に、現在の社会科の授業での生徒の様子を話し合ったときにも、同様のことが各学校の社会科教師より挙げた。そこで、本部会では、授業中に積極的に仲間と意見交換をしたり、学び合ったりする場面を取り入れ、自分の意見や考えが周囲にどのように受け入れられているかを生徒自身が判断できる場面を設定した。本単元で扱う「ルールづくり」は、最終的に合意形成が必要となるので、その前の過程では、仲間との意見交換や情報交換が不可欠である。生徒が、安心して意見交換や情報交換ができるような環境を整え授業に臨みたい。

2. 単元「地球環境問題とわたしたちの生活」では、グループごとの意見交換を行います。あなたは意見交換でどのような活動をしたと思いますか。

- ア 積極的に意見を出し、話し合いを深めたい。 (2点)
- イ 自分と同じ考えや興味を持てる発表者と話したい。 (3点)
- ウ 多くの考えに触れられるので、質問をしたい。 (3点)
- エ 自分の発表はするが、意見は言わない。 (1点)
- オ 異なる考えや興味を持ってない発表にも耳を傾けたい。 (2点)
- カ 特に働きかけていこうとは思っていない。 (1点)



本年度より、授業に話し合い活動を意識的に取り入れてきたことで、意見交換に対しては前向きな回答を得られた。特に、公民的分野では答えが一つではない場合が多く、生徒は間違いを恐れることが少ないことも、その一因であると考えられる。本単元でも、生徒同士の話し合いを通してルールをつくることになるので同様のことが言える。授業者としては、生徒にとってできるだけ身近な話題から考えさせることで、活発な意見交換が行われるように努めたい。

上記の二つの質問以外に、自由記述形式で以下の三つの質問を行った。

3. みんなと一緒に活動するとき、意見が異なった場合にあなたはどうしますか。
 4. ルールは何のためにあると思いますか。
 5. あなたは最もよいと考えるルールの決め方は何だと思いますか。

質問3については、3分の1の生徒が「お互いに納得できるように話し合ってから行動する」と考えており、合意形成の大切さに気づいていることがわかる。

質問4については、3分の1の生徒が「さまざまな立場の人たちが対等に生活ができるようにするためである」、4分の1の生徒が「犯罪を取り締まり、社会の秩序を守るためである」と回答した。ルールが、自分たちの日常生活を安定させるためにあることを理解していることがわかる。

質問5については、ほとんどの生徒が、「少数意見をくみ取った多数決」、「いろいろな立場の人たちが納得できる話し合い」と回答した。さらに6月に実施した単元「国際問題と地球市民」の授業でのワークシートの記述では、「レジ袋を廃止し、マイバックを使用する」ことには、多くの生徒が賛成をした。また、地球温暖化防止のための対策にどう取り組むべきかについては、90%以上の生徒が「さらに強化して取り組むべきである」と回答している。しかし、直ちに解決しなければならない身近な問題ととらえられてはいないため、実際には温暖化防止に対して具体的な取り組みには、まだ消極的である。つまり、頭では理解できても切実な問題としてとらえられていないため、行動に移せていないのが現状である。

本単元は、ルールづくりの学習を通して、法が多様な人々が共生するための相互尊重のルールであり、それを守っていくことの大切さを理解させることをめざしている。「地球市民」として共生していくためにどうすべきか、ルールづくりを体験させることで考えさせたい。

5. 指導目標

- (1) ルールについての関心を高め、地球環境に関する様々な問題を解決していくために、自分たちが実行できるルールを考えさせ、よりよい社会を築こうとする意欲や態度を育てる。
- (2) ルールづくりを通して、社会生活におけるルールの重要性とそれを守る意義を考えさせる。
- (3) 地球環境問題を解決するための望ましいルールを考えさせ、適切に表現させる。
- (4) つくられたルールを合理的に考察させ、ルールが適正となる要件に基づき評価させる。

6. 指導計画

単元名「地球環境問題とわたしたちの生活」～みんなのできることを決めよう～ 4時間扱い

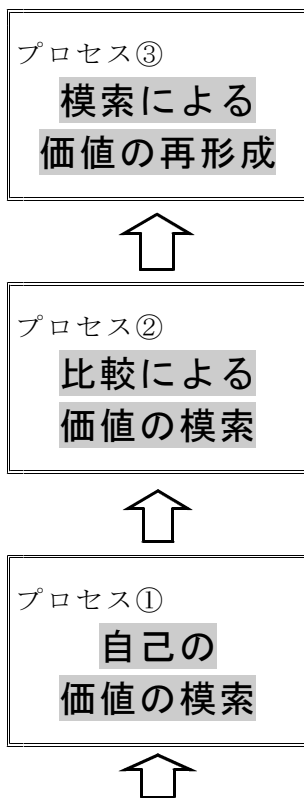
項目	学習内容	時配	留意点
ルールについて考えてみよう	《学習課題》 受け入れられるルールの要件を考えてみよう。 ○ルールの存在について考える。 ・秩序の維持 ・紛争の解決 ○ルールの適正要件を考える。 ・目的は正しいか。	1	・身の回りにあるルールを考えさせるようにする。 ・いくつかのルールの例を検討し、何か問題はないか、ルールが受け入れ

	<ul style="list-style-type: none"> ・目的を果たせるのか。 ・困る人はいないか。 ・その方法でないといけな いのか。 ・内容はわかりやすいか。 ・みんなが参加しているか。 ・みんなに平等であるか。 		<p>られるためには、どのように変更す るとよいかを考えさせる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> <p>【価値の気づき】</p> <p>ルールづくりの必要性を知らせ、 ルールの適正要件を考えさせる。</p> </div>
<p>地球温暖化ス トップのため にみんなので きること</p>	<p>《学習課題》 各グループで地球温暖化スト ップのためのルール案をつく ろう。</p> <p>○対策案についてクラスで自 分の意見を発表する。 例・家庭と学校での節電 ・買い物のレジ袋不使用</p> <p>○対策案は自分の生活の中 でできるか否かを考え、発表 する。 例・実行可能だができない。 ・常時は意識できない。</p> <p>○各自で実行可能な対策案を 考える。 例・ごみの分別 ・リサイクルへの協力</p>	2	<ul style="list-style-type: none"> ・地球温暖化防止などのために、自分 ができること(対策)を考えさせる。 ・どの程度まで実行するかなど、具体 的な提案にすることを確認させる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> <p>【自己の価値の模索】</p> <p>自分の考えに基づき、対策案を まとめさせる。</p> </div>
	<p>○グループごとにルール案を 作成し、発表する。 例・焼却ごみを分別する。(雑 紙リサイクル)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・硝子瓶のリサイクルする。 ・給湯温度を低く設定する。 ・冷蔵庫の開閉数を減らす。 ・テレビの視聴時間を短縮 する。 		<ul style="list-style-type: none"> ・他者を説得することができるように 提案の工夫をするように促す。 ・ルール案作成上、以下の点に注意さ せる。 <ul style="list-style-type: none"> ・罰金や罰則などを設けることだけ に着目をしないこと。 ・大まかにでも期待できる効果の説 明ができること。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> <p>【比較による価値の模索】</p> <p>ルール案を、グループ内及びクラ ス全体で検討させる。</p> </div>
<div style="border: 1px solid black; padding: 10px; width: fit-content; margin: auto;"> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒は、授業終了後にグループの代表者が集まりルール案検討委員会を開き、 クラス全体での検討会の記録をもとにしてルール案を決定する。 ・教師は、次時にルール案の決定の過程と理由についての説明を含め、クラス全 体に提示するように伝える。 </div>			

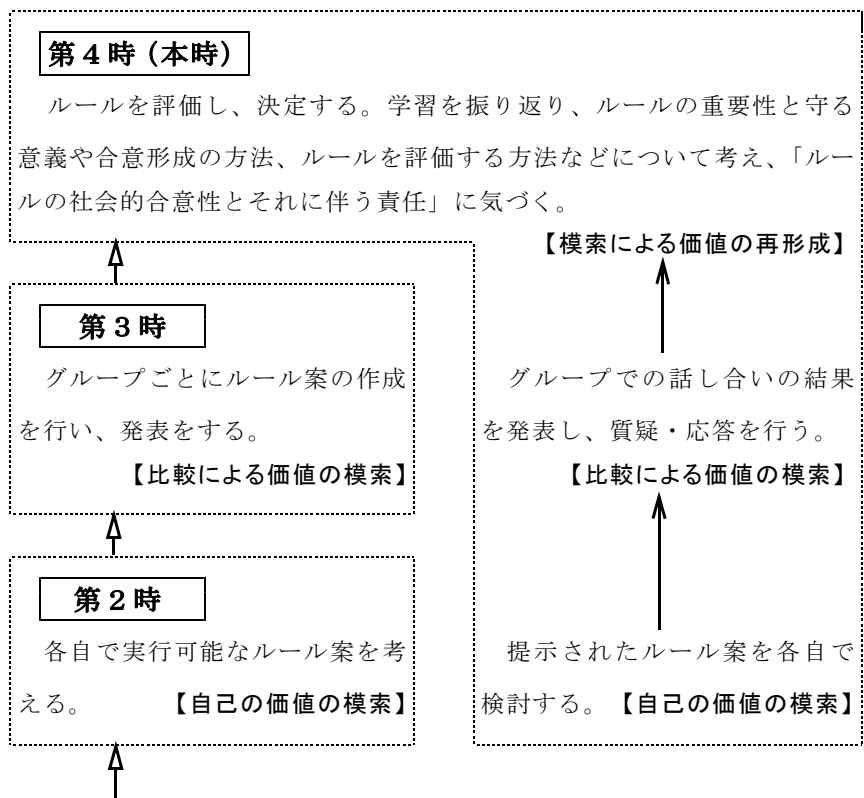
<p>地球温暖化をストップするためのルールづくりと評価</p>	<p>《学習課題》 地球温暖化ストップのためにみんなで行えるルールを決めよう。</p> <p>○ルール案検討委員会より提示されたルール案を各自で検討する。</p> <p>○グループごとに話し合い、まとめた意見をクラスに発表する。</p> <p>○ルール案を評価し、ルールを決定する。多数決の場合もある。</p> <p>○学習のまとめをする。</p>	<p>1 本時</p> <ul style="list-style-type: none"> 受け入れることができるか、受け入れることはできないかを問い、その理由を考えさせる。 <p>【自己の価値の模索】</p> <p>ルール案検討委員会が提示したルール案をまず、各自で検討させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> 発表した意見は必ず掲示させる。 <p>【比較による価値の模索】</p> <p>ルール案を、グループ内及びクラス全体で検討させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ルール案が否決された場合、無理に修正して可決させることはしない。 <p>【模索による価値の再形成】</p> <p>ルールづくりには社会的合意性が、ルールを運用するには責任が伴うことを確認する。</p>
---------------------------------	--	--

7. 単元の構造

〈模索のプロセス〉



〈単元の構造〉



価値の気づき

第1時

日常生活で起こるトラブルを想定し、それを解決するためのルールの適正要件を考える。 【価値の気づき】

8. 本時の指導

(1) 内容

「地球温暖化防止のためのルールづくりとその評価」

(2) 目標

- ①ルールを検討、評価することを通して、自分が納得したうえでみんなで実行できるルールを考え決定することができる。
- ②発表活動を通して、提案内容を適切に表現することができる。

(3) 展開

●学習内容 ○一般的な留意点 ★部会のテーマに即した留意点

時配	学習活動と内容	指導上の留意点
10	1. 各グループの代表者で構成されたルール案検討委員会が、ルール案を提示する。 ルール案例 ・焼却ごみを減らすために雑紙のリサイクルに協力する。	○検討委員会で検討した過程と提案内容決定の理由について、明確な説明をするように促す。 ○説明しやすくするためにおもな提案内容を掲示させる。
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">地球温暖化ストップのためにみんなで実行できるルールを決めよう</div>		
30	2. 提示されたルール案を各自で検討する。 ・賛成／理由：実行しやすい。 ・反対／理由：雑紙の見分け方が困難だ。 3. ルール案は実行可能か否かを各グループで話し合う。 ・賛成／雑紙の見分け方は慣れてくれば大丈夫である。 ・反対／煩雑で長続きしない。 4. グループごとにまとめた意見を各グループの進行係が発表し、質疑・応答を行う。 ・賛成／日常生活の中でできることなので家庭でも学校でも実行可能である。 ・反対／煩雑な雑紙の分別はやめるべきだ。	★受け入れることができる（賛成）か、受け入れることはできない（反対）かの理由を個人で考えさせる。 【自己の価値の模索】 ○グループ内で進行係と記録係を決めさせておき、話し合いが円滑に行われるようにする。 ○全体の話し合いの司会進行は、ルール案検討委員会に行わせる。その際、必要に応じて質問に対して答弁をさせる。 ○発表した意見を掲示させることで、実行不可能な理由を明確にさせる。 ○納得の出来ない点などがあれば、積極的に意見を出すように促す。 ○クラス内の意見がどちらか一方に偏った場合には、教師が反論を用意して考えさせる。 【比較による価値の模索】

	<p>5. 今までの話し合いを踏まえて提示されたルール案を評価し、ルールを決定する。多数決の場合もある。</p> <p>●ルールの評価の視点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・手続きの公平性 ・平等性（公正さ） ・明確性 ・手段の相当性 <p>6. ルールについて以下の点を確認する。</p> <p>●ルールの特質</p> <ul style="list-style-type: none"> ・みんなで決定したルールは、受け入れられる（守るべきである）。 ・ルールは、必要があれば変更（改正）することができる。 	<p>★ルールを評価する視点について、話し合いで出された意見をもとに説明をする。</p> <p>○提示されたルール案が否決された場合、無理に修正して可決させることはしない。</p> <p>○ルールに、実効性が無かったり、状況の変化により適応できなくなった場合について補足する。</p>
10	7. この学習で学んだことや感想を、各自でまとめ、発表する。	<p>★個人と集団・社会全体のことを考えながら意見を調整し、お互いに合意する過程を経て、身近な生活の問題や現代社会の課題を解決していくことを考えた生徒の感想を紹介する。</p> <p style="text-align: right;">【模索による価値の再形成】</p>

(4) 評価

- ① 提案されたルールを検討し評価することを通して、自分が納得してみんなで実行できるルールを決定することができたかを、教師が授業後に集めた生徒のワークシート記入事項から判断する。
- ② 発表活動を通して、提案内容をわかりやすく発表することができたかについて、教師による授業時の観察から判断する。